

平成27年度特別事業 親子ふれあい事業

マリンワールド 海の中道 親子ペアご招待



魚が魚を食べるって不思議だなあとと思いました。(小1・男子)

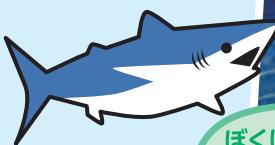
今回の『平成27年度 福岡市PTA協議会 親子ふれあい事業 マリンワールド親子鑑賞』には、全部で31,000組の応募を頂きました。福岡市PTA協議会にて、役員による厳正な抽選を行い、1,000組をご招待させて頂きました。

取材当日は真夏日で暑い中、子どもたちは楽しそうに初めてイルカに触ったり、普段は入れないバックヤードで水族館の仕事内容を教えてもらったりと、とても有意義な一日になりました。

平日にもかかわらず、たくさんの方々が来られました。



普段は入れないバックヤードに入ってみてサメのエサ等を見せてもらい勉強になりました。又、働く人の大変さも知りました。(小6・女子)



ぼくはクラブで忙しく、お母さんは仕事で忙しく、その中で1日休みが合いました。前に行ったことを覚えてませんが、ぼくは2回目です。お母さんと一緒に受けたことがうれしいです!次は家族で行きたいです。(小6・男子)



サメに食べられないのかな~(小1・女子)



怪我をした子どもへの優しさも感謝していますが、この返事も大変やかに感じました。こんな気持ちの子ども達が育つ校区のすばらしかった出来事でした。



小学校区は、近年宅地開発が急激に進み、それまでの田畠が広がった農村的な状況から大きく変貌しつつあります。大きな道路が通り、人の往来も多くなると、それまでの街の様子や人々の関わり方も変わってきます。

人が増えると、新たなコミュニケーションが形成されるまでに時間をする事も多く、互いのつながりも希薄になります。しかし、先日、本校低学年児童が、登校途中に転んでケガをして泣いている時に、たまたまそこを通りかかった一人の男子高校生が、泣いている児童を見かねて、おんぶして学校まで送り届けてくれました。その時期は、初夏の暑さも感じるような時期でしたので、おんぶして来たその生徒は、額に汗をいっぱいかいて学校まで送り届けてくれました。対応した養護教諭から報告を受け、その生徒の服も汚れてはいなかと心配になり、その生徒の通う学校に、お礼も兼ねて電話をしました。先方の教頭先生に「部活動でこんな事は慣れているで、何も心配いりません」と言つていたそうです。



発行所

福岡市中央区天神1丁目10-1
市庁舎北別館
福岡市PTA協議会

発行人

会長 日高政治
広報委員会



福岡市PTA協議会
ホームページ

<http://www.fukuokacitypta.jp>

福岡市PTA 検索

印刷(株)ミックスコーポレーション



Column ちょっと嬉しい話



福岡市校長会広報部長
荒木信博

私の勤務する元岡

小学校は、近年宅地
開発が急激に進み、そ

れまでの田畠が広がった農村的な状

況から大きく変貌しつつあります。

大きな道路が通り、人の往来も多く

なると、それまでの街の様子や人々

の関わり方も変わってきます。

各学校・保護者の皆様に
おかれましては、市への要
望等ございましたら、各単
位PTAにてまとめて頂
き、PTA会長を通じて
各区連の教育問題委員会へ
上げて頂ければ、可能な
限り福岡市教育委員会へ
提言してまいりますので、今後ともご理解とご協力
をよろしくお願ひ致します。

要望書作成にあたり、市内の全学校にアンケート調査を実施し各学校の問題点や課題などを集計し、その結果をもとに予算要望書を作成しております。今年度夏休みに全小学校にエアコンを導入できたらとも、長年にわたって要望してきた1つが現実のものとなりました。現在も様々な問題を抱えている学校も多く、例えば学校施設の老朽化、教職員の不足やスクールカウンセラー・ソーシャルワーカーの各学校への配置、中学校におきましては、部活動顧問や指導者の不足等課題は山積していると言つても言い過ぎではありません。ただしそれぞれの問題を一度に解決することは難しいのが現実ではありますが、毎年それらを精査し根気強く市へ要望し、出来る限り早い段階で実現できるよう今後も市へ働きかけてまいります。



平成28年度 教育予算要望

平成27年7月24日

平成 27年度 特別支援教育啓発研修会 小学校・中学校

今年度の特別支援教育啓発研修会は、関西国際大学教授 中尾繁樹にご講演いただきました。参加者1140名が集う会場で、盛りだくさんの内容を、とてもやさしい語りかけで、笑いあり、動きありのあつという間の2時間でした。

特別支援教育 ≠ 障がい児教育

「特別支援教育」とは、障がいの有無にかかわらず、すべての子どもたちのためにすべての教員がかかわる教育です。特別支援教育の本質は「子どもの実態把握」といわれています。「子どもの実態把握」とは障がいをみつけることではなく、子ども一人ひとりが何ができる何に困っているかを見極め、そして対応していくこと。それが本当の特別支援教育のポイントです。

特別支援教育が普及・定着すると、「いじめと不登校」を未然に防止する効果があるといわれています。でも残念ながら、まだ特別支援教育が普及・定着しているとは言えません。なぜなら、障がい児教育のままだからです。教室を飛び出す子どもに対してどういう指導をするかではなく、40人のクラス一人ひとりの困っていることを探してあげることが重要です。実態がわかれれば、このようなことはなくなってしまいます。「特別支援教育」は、予防



の教育ともいえるのです。

鉛筆がうまく持てない子どもに、鉛筆の持ち方だけを教えても、鉛筆をうまくもてるようにはなりません。なぜ鉛筆をうまく持てないのかという広い視点が必要であり、様々な体の発達が関係していることの理解が必要になってきます。姿勢保持が難しく体を支えることが困難な場合は、体幹を安定させ、体力をつけることが必要です。「体を支持する・支える」力は、学習に向かう力の土台であり、姿勢維持や鉛筆の持ち方などの安定にもつながっていきます。



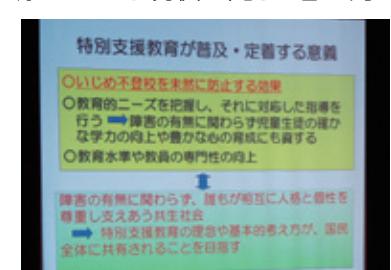


中尾 繁樹氏

授業のユニバーサルデザインとは…

「授業もすべての子どもたちがわかるように工夫しましょう」という試みです。そのためにも、その子が何がわかって何がわかっていないのか子どもの実態把握をする必要があります。子どもは体づくりをして話を聞ける正しい姿勢をつくる。そして大人は子どもにとって、安心安全な空間をつくる。また、感謝・共感の言葉を子どもたちに伝えることも大事です。

特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室に在籍している子どもたちの人数は多くなっています。支援が必要な子どもたちが増えていることは問題ではありませんが、それに対してどういう支援体制ができるかが問題です。子どもにとっての必要



©由尾繁樹氏プロフィール

◎中尾繁樹氏プロフィール
大阪教育大学教育学部卒業後、神戸市的小学校・特別支援学校教員を18年間、同教育委員会指導主事を9年間務めた後、現職。指導主事時代から、神戸市の中・小学校の約300校を訪問し、支援の必要な児童生徒に対しての具体的な支援のあり方を先生方に指導助言する。また、特別支援教育の専門家として全国を飛び回り、公開講座の講師や自治体の専門家チームの相談員として、現役教員の指導・育成にもあたる。

最終日には、第12回仙台市PTAフェスティバルに参加し、二テントをいただき福岡市のお菓子、ラーメンの試食販売をし、売上金を寄贈しております。「東日本大震災を忘れないでください」の言葉を胸にこれから福岡市と東北との結びつきを大切に活動していきたいと思います。伝え続けていきたいと思います。



市大会のお礼を述べました。また、南三陸町を訪問し、被災地の復興を見ましたが、まだまだ復興の途中でした。大川小にも行きましたが、悲しみで声を出すこともできず、ただ手を合わせることしかできませんでした。

福岡市PTA協議会では研修事業の「つ」として「PTA指導者国内研修」を行つております。本年度は宮城県仙台市を訪問しました。

指導者国内研修 in 仙台

